

App Bridge Tools 連携コマンドガイド

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割	1
2. 連携ツールの概要	2
2.1 連携ツールとは	2
2.2 稼働環境	2
2.3 対象とするオーナーとユーザアカウント	2
3. 連携ツールのインストールと設定	3
3.1 セットアップファイルのダウンロードと解凍	3
3.2 インストール	3
3.3 アクセスユーザの準備	4
3.4 アクセスユーザ設定	5
4. 連携参照コマンド	6
4.1 アクセスユーザ権限	6
4.2 実行制限	6
4.3 StatsDownload コマンド	7
4.3.1 コマンド概要	7
4.3.2 コマンド様式	7
4.3.3 リターンコード	8
4.3.4 ダウンロードファイルの形式	9
4.4 MessageDownload コマンド	15
4.4.1 コマンド概要	15
4.4.2 コマンド様式	15
4.4.3 リターンコード	15
4.4.4 ダウンロードファイルの形式	16
4.5 ShowStatus コマンド	18
4.5.1 コマンド概要	18
4.5.2 コマンド様式	18
4.5.3 リターンコード	19
4.5.4 コマンドの使用例	19
4.6 GetBillingNodeInfo コマンド	20
4.6.1 コマンド概要	20
4.6.2 アクセスユーザ権限	20
4.6.3 コマンド様式	20
4.6.4 CSV 様式	21
5. 連携設定コマンド	22
5.1 アクセスユーザ権限	22
5.2 実行制限	22
5.3 GetMessageCustomizes コマンド	23
5.3.1 コマンド概要	23
5.3.2 コマンド様式	23
5.3.3 リターンコード	23

5.3.4 出力ファイルの形式	23
5.4 SetMessageCustomizes コマンド	24
5.4.1 コマンド概要	24
5.4.2 コマンド様式	24
5.4.3 リターンコード	24
5.4.4 入力ファイルの形式	24
5.5 GetCalendar コマンド	25
5.5.1 コマンド概要	25
5.5.2 コマンド様式	25
5.5.3 リターンコード	25
5.5.4 出力ファイルの形式	25
5.6 SetCalendar コマンド	26
5.6.1 コマンド概要	26
5.6.2 コマンド様式	26
5.6.3 リターンコード	26
5.6.4 入力ファイルの形式	26
6. 連携通知コマンド	27
6.1 アクセスユーザ権限	27
6.2 SendInfoAPI、SendWarningAPI、SendErrorAPI	27
6.2.1 コマンド概要	27
6.2.2 コマンド様式	27
6.2.3 代替文字列	28
6.2.4 コマンドの実行制限	29
6.2.5 リターンコード	29
7. 連携フォーム	30
7.1 通知メッセージビューア	30
7.1.1 フォーム概要	30
7.1.2 アクセスユーザ権限	30
7.1.3 起動方法	31
7.1.4 表示データの抽出	32
7.1.5 CSV ファイルのインポート/エクスポート	33

1. 本書の役割

本書は、App Bridge の提供する連携ツールについて説明するものです。

2. 連携ツールの概要

2.1 連携ツールとは

連携ツールは、App Bridge センタの REST API を使用し、各種機能を提供するツール群です。連携ツールは Windows 版のみ提供されます。

2.2 稼働環境

連携ツールは以下の環境で稼働します。App Bridge Monitor Windows Agent との同居は可能です。

項目	内容	備考
対象 OS	Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2 Windows Server 2016 Windows Server 2019 Windows Server 2022 Windows 10	
前提フレームワーク	.NET Framework 4.5.2 以降	
前提ネットワーク	App Bridge センタとの HTTPS 通信	プロキシサーバに対応しています

2.3 対象とするオーナーとユーザアカウント

連携ツールを利用するためには、API を許可されたユーザアカウントが必要です。連携ツールは、設定されたユーザアカウントの権限を利用し、当該ユーザアカウントに許可されたアプリケーションオーナーの情報を参照します。

3. 連携ツールのインストールと設定

3.1 セットアップファイルのダウンロードと解凍

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Tools.html

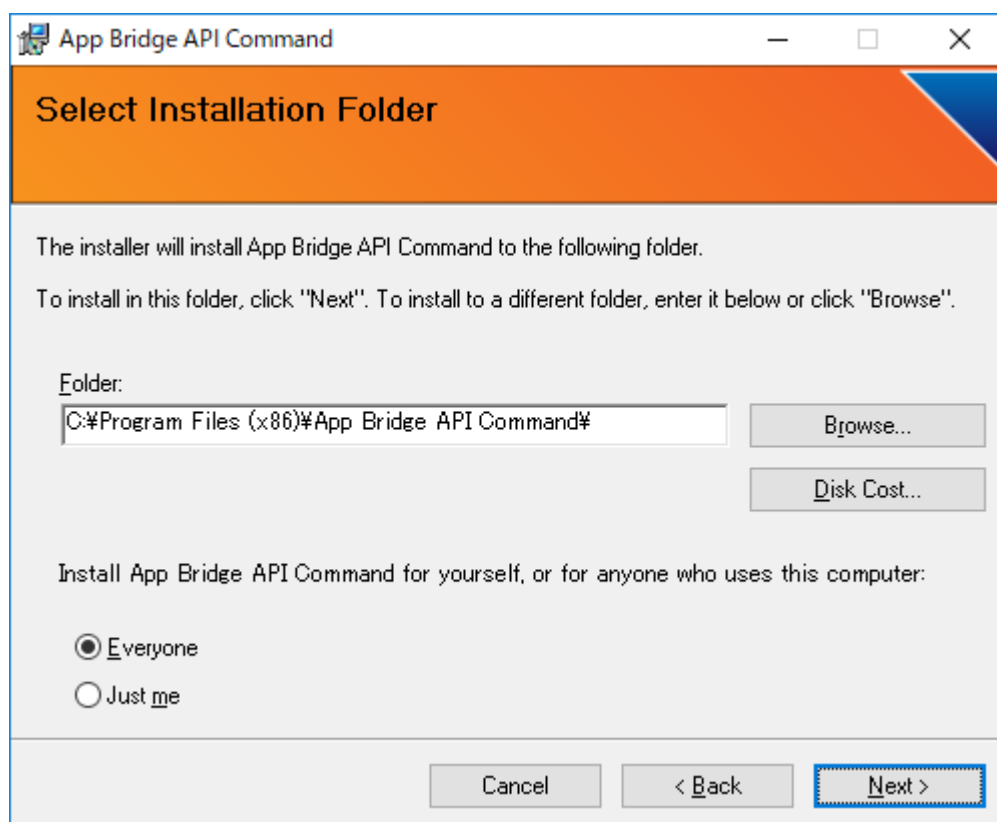
ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupABMAPICommand_v011900.zip	SetupABMAPICommand.msi	
SetupABMAPIConfig_v011900.zip	SetupABMAPIConfig.msi	※1
SetupABMSupport_v011900.zip	SetupABMSupport.msi	※1、※2

※1：同セットアップが既にインストールされているとき、不要です

※2：App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされているとき、不要です

3.2 インストール

解凍したセットアップを実行し、示されたウィザードに従って、インストールを実施します。



3.3 アクセスユーザの準備

App Bridge センタとアクセスする際に使用するアクセスユーザを準備して下さい。アクセスユーザには、以下の権限が必要です。ユーザの登録方法については、別紙「App Bridge 管理者ガイド」を参照して下さい。

使用するコマンド	必要な権限（ロール）	備考
連携参照コマンド	User 以上	
連携設定コマンド	ServiceAdmin 以上	
連携通知コマンド	ServiceAdmin 以上	
連携フォーム/通知メッセージ ビューア	User 以上	未読メッセージを既読に変更するには ServiceAdmin 以上の権限が必要です

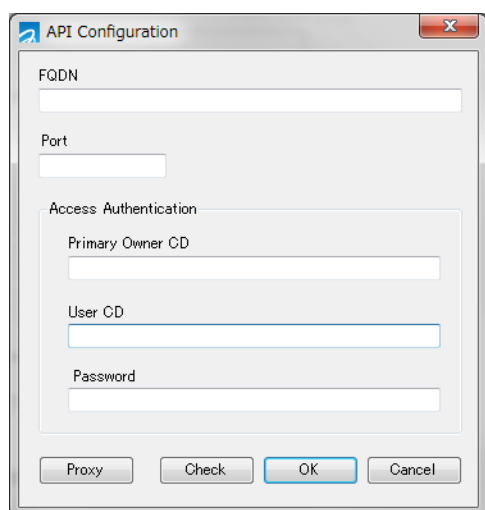
アクセスユーザについて

アクセスユーザは、REST API の認証情報に使用するユーザです。ユーザ登録で、API アクセス許可を付与して下さい。

アクセスユーザには、ログイン権限を付与をせず、専用のユーザを作成いただくことを推奨しています

3.4 アクセスユーザ設定

インストールした PC/サーバのメニューから、[スタート]→[App Bridge API]→[API Configuration]を選択し、表示された画面で連携ツールがアクセスに使用するユーザアカウント情報を設定します。

The image shows a Windows-style dialog box titled "API Configuration". It contains several input fields: "FQDN" at the top, "Port" below it, and an "Access Authentication" section containing "Primary Owner CD", "User CD", and "Password". At the bottom, there are four buttons: "Proxy", "Check", "OK", and "Cancel". The "OK" button is highlighted with a blue border.

#	項目	内容	備考
1	FQDN	App Bridge センタにアクセスするためのFQDN	mercury-api.app-bridge.com を指定下さい
2	Port	App Bridge センタにアクセスするためのポート番号	443 を指定下さい
3	Primary Owner CD	ユーザが所属するオーナーコード	
4	User CD	アクセスに使用するユーザコード	
5	Password	ユーザのパスワード	
6	Proxy	プロキシサーバを経由する場合、本ボタンをクリックしプロキシ情報を設定します。	※1
7	Check	App Bridge センタと通信し、通信状態を確認します	

※1: プロキシ設定の詳細は、App Bridge Monitor Agent 監視サービス Windows Agent インストールガイド/Windows Agent のプロキシ設定をご参照下さい。

4. 連携参照コマンド

4.1 アクセスユーザ権限

連携参照コマンドを使用するためには、アクセスユーザとして、User 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

4.2 実行制限

過度な実行を抑止するため、同一コンピュータ内で連携参照コマンドの同時実行を制限します。実行制限されたコマンドは、先行コマンドの終了を待ち、自動的に処理を再開します。

4.3 StatsDownload コマンド

4.3.1 コマンド概要

統計情報を CSV 形式でダウンロードします。

4.3.2 コマンド様式

コマンドの様式は以下のとおりです。

```
StatsDownload    [-o ownercd]
                  -n nodecd
                  [-uk (true|false)]
                  [-d yyyymmdd]
                  [-r (standard|web)]
                  [-h (true|false)]
                  [-l (en|jp)]
                  [-fe (utf8|shiftjis)]
                  [-fm (create|append)]
                  [-fp "outputfolderpath"]
                  [-fn "outputfilename"]
```

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナー CD	アクセスユーザのオーナー CD
-n	対象のノード CD	必須
-uk	ステータス Unknown のサーバインスタンスを対象とする場合 true	false
-d	対象年月日 yyyymmdd : 指定された日の 1 時間単位データを CSV 出力する yyyymm00: 指定された月の 1 日単位データを CSV 出力する	システム時刻（ローカルタイム）の前日（yyyymmdd）
-r	出力するレコード形式 standard : 標準形式 web : Web 互換形式	standard
-h	ファイルの先頭にヘッダ行を出力する場合 true	false
-l	出力する CSV ファイルの言語種別を指定する	en
-fe	出力する CSV ファイルの文字コードを指定する	utf-8
-fm	出力ファイルが既に存在していた際の動作を指定する create : 上書き append : 追記書き	append
-fp	出力する CSV ファイルの出力フォルダを指定する（※1）	デスクトップ¥%yyyymmdd¥%ownercd%
-fn	出力する CSV ファイルのファイル名を指定する（※1）	%nodecd%_%instanceid%_%monitortype%. csv

※1：以下の代替文字が使用できます。代替文字は英字大文字、小文字を判定しません

代替文字	設定値
%OwnerCD%	-o の値
%NodeCD%	-n の値
%InstanceID%	データ中のインスタンス ID (32 文字) インスタンス ID が空値のとき 32 文字のゼロ
%YYYYMMDD%	-d の値
%MonitorType%	データ中のモニタタイプ (以下の何れか) CPUBusy DBSpace DBQuery DiskBusy DiskSpace Http Network PhysicalMemory Ping TCPPort VirtualMemory Custom

4.3.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※1：エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

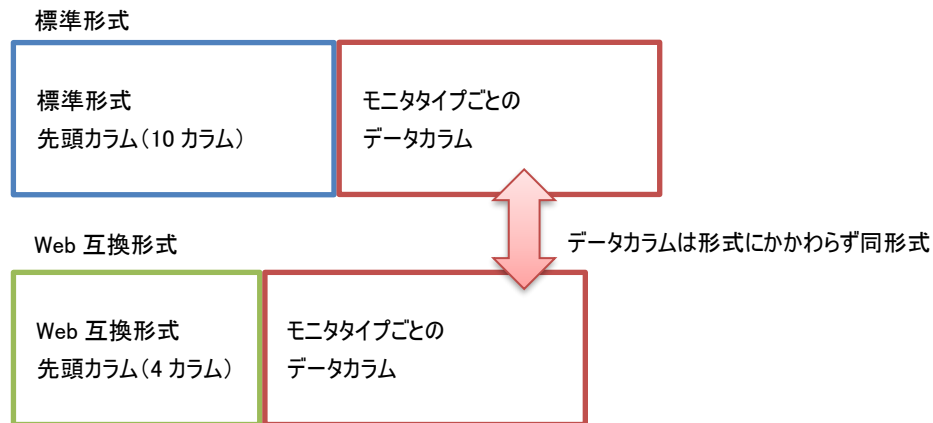
4.3.4 ダウンロードファイルの形式

(1) ダウンロードファイルの様式

ダウンロードファイルは CSV 形式のテキストファイルです。

(2) レコード形式

レコード形式には、標準形式と Web 互換形式の 2 つがあります。標準形式は「10 カラムの先頭カラム」と「モニタタイプごとのデータカラム」で構成されます。Web 互換形式は「4 カラムの先頭カラム」と「モニタタイプごとのデータカラムで構成」されます。データカラムは標準形式、Web 互換形式で同形式となっています。



(3) 標準形式の先頭カラム

カラム番号	ヘッダタイトル		値	
	en	jp	en	jp
1	ownerid	オーナー ID	対象のオーナー ID	
2	ownercd	オーナーコード	対象のオーナー CD	
3	nodeid	ノード ID	対象のノード ID	
4	nodecd	ノードコード	対象のノード CD	
5	instancetype	インスタンスタイプ	Single Multi	シングル マルチ
6	instanceid	インスタンス ID	対象のインスタンス ID	
7	instancename	インスタンス名	対象のインスタンス名 (インスタンスタイプが Single のとき Empty)	
8	datatype	集計タイプ	1 時間単位データ : Hour 1 日単位データ : Date	1 時間単位データ : 時間単位 1 日単位データ : 日単位
9	occurrevertime	発生日時	1 時間単位データ : yyyy/MM/dd hh:00 1 日単位データ : yyyy/MM/dd 00:00	
10	monitortype	モニタタイプ	CPUBusy DBSpace DBQuery DiskBusy DiskSpace Http Network PhysicalMemory Ping TCPPort VirtualMemory Custom	CPU ビジー DB 容量 DB 応答時間 ディスクビジー ディスク容量 Http ネットワークビジー 物理メモリ容量 Ping TCP ポート 仮想メモリ容量 カスタム監視

(4) Web 互換形式の先頭カラム

カラム番号	ヘッダタイトル		値	
	en	jp	en	jp
1	nodecd	ノード CD	① 対象ノードのインスタンスタイプがシングルのとき 対象のノード CD ② 対象ノードのインスタンスタイプがマルチのとき 対象のノード CD(ノードインスタンス名) ※()は定数(半角カッコ)	
2	datatype	集計タイプ	1 時間単位データ : Hour 1 日単位データ : Date	1 時間単位データ : 時間単位 1 日単位データ : 日単位
3	occurrevertime	発生日時	1 時間単位データ : yyyy/MM/dd hh:00 1 日単位データ : yyyy/MM/dd 00:00	
4	monitortype	モニタタイプ	CPUBusy DBSpace DBQuery DiskBusy DiskSpace Http Network PhysicalMemory Ping TCPPort VirtualMemory Custom	CPU ビジー DB 容量 DB 応答時間 ディスクビジー ディスク容量 Http ネットワークビジー 物理メモリ容量 Ping TCP ポート 仮想メモリ容量 カスタム監視

(5) モニタタイプごとのデータカラム

【CPUBusy】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	CPUName	CPU 番号	CPU 番号
共通項目数+2	MinimumBusyPercent	最小 CPU ビジー率	当該期間の最小 CPU ビジー率
共通項目数+3	MaximumBusyPercent	最大 CPU ビジー率	当該期間の最大 CPU ビジー率
共通項目数+4	AverageBusyPercent	平均 CPU ビジー率	当該期間の平均 CPU ビジー率

【DBSpace】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	DBNameForDisplay	DB 名	DB 名
共通項目数+2	MaximumKB	最大容量(キロバイト)	当該期間の最大容量(キロバイト)
共通項目数+3	MinimumUsedKB	最小使用量(キロバイト)	当該期間の最小使用量(キロバイト)
共通項目数+4	MinimumAllocateKB	最小割当量(キロバイト)	当該期間の最小割当量(キロバイト)
共通項目数+5	MaximumUsedKB	最大使用量(キロバイト)	当該期間の最大使用量(キロバイト)
共通項目数+6	MaximumAllocateKB	最大割当量(キロバイト)	当該期間の最大割当量(キロバイト)
共通項目数+7	AverageUsedKB	平均使用量(キロバイト)	当該期間の平均使用量(キロバイト)
共通項目数+8	AverageAllocateKB	平均割当量(キロバイト)	当該期間の平均割当量(キロバイト)

【DBQuery】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	DBNameForDisplay	DB 名	DB 名
共通項目数+2	QueryCDForDisplay	クエリーCD	クエリーCD
共通項目数+3	SuccessCount	累計成功回数	当該期間の成功回数
共通項目数+4	FailCount	累計失敗回数	当該期間の失敗回数
共通項目数+5	MinimumResponseTime MilliSeconds	最小応答時間(ミリ秒)	当該期間の最小応答時間(ミリ秒)
共通項目数+6	MaximumResponseTime MilliSeconds	最大応答時間(ミリ秒)	当該期間の最大応答時間(ミリ秒)
共通項目数+7	AverageResponseTime MilliSeconds	平均応答時間(ミリ秒)	当該期間の平均応答時間(ミリ秒)

【DiskBusy】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	DriveName	物理ドライブ名	物理ドライブ名
共通項目数+2	MinimumBusyPercent	最小ディスクビジー率	当該期間の最小ディスクビジー率
共通項目数+3	MaximumBusyPercent	最大ディスクビジー率	当該期間の最大ディスクビジー率
共通項目数+4	AverageBusyPercent	平均ディスクビジー率	当該期間の平均ディスクビジー率

【DiskSpace】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	DriveName	論理ドライブ名	論理ドライブ名
共通項目数+2	MinimumUsedPercent	最小ディスク使用率	当該期間の最小ディスク使用率
共通項目数+3	MaximumUsedPercent	最大ディスク使用率	当該期間の最大ディスク使用率
共通項目数+4	AverageUsedPercent	平均ディスク使用率	当該期間の平均ディスク使用率

【Http】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	ForDisplayEndpoint	エンドポイント	エンドポイント
共通項目数+2	SuccessCount	累計成功回数	当該期間の成功回数
共通項目数+3	FailCount	累計失敗回数	当該期間の失敗回数
共通項目数+4	MinimumResponseTime Milliseconds	最小応答時間(ミリ秒)	当該期間の最小応答時間(ミリ秒)
共通項目数+5	MaximumResponseTime Milliseconds	最大応答時間(ミリ秒)	当該期間の最大応答時間(ミリ秒)
共通項目数+6	AverageResponseTime Milliseconds	平均応答時間(ミリ秒)	当該期間の平均応答時間(ミリ秒)

【Network】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	NICName	NIC 名	NIC 名
共通項目数+2	MinimumReceiveBytes PerSec	最小受信データ量(バイト/秒)	当該期間の最小受信データ量(バイト/秒)
共通項目数+3	MaximumReceiveBytes PerSec	最大受信データ量(バイト/秒)	当該期間の最大受信データ量(バイト/秒)
共通項目数+4	AverageReceiveBytes PerSec	平均受信データ量(バイト/秒)	当該期間の平均受信データ量(バイト/秒)
共通項目数+5	MinimumSentBytesPer Sec	最小送信データ量(バイト/秒)	当該期間の最小送信データ量(バイト/秒)
共通項目数+6	MaximumSentBytesPer Sec	最大送信データ量(バイト/秒)	当該期間の最大送信データ量(バイト/秒)
共通項目数+7	AverageSentBytesPer Sec	平均送信データ量(バイト/秒)	当該期間の平均送信データ量(バイト/秒)

【PhysicalMemory】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	MinimumUsedPercent	最小メモリ使用率	当該期間の最小メモリ使用率
共通項目数+2	MaximumUsedPercent	最大メモリ使用率	当該期間の最大メモリ使用率
共通項目数+3	AverageUsedPercent	平均メモリ使用率	当該期間の平均メモリ使用率

【Ping】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	ForDisplayEndpoint	エンドポイント	エンドポイント
共通項目数+2	SuccessCount	累計成功回数	当該期間の成功回数
共通項目数+3	FailCount	累計失敗回数	当該期間の失敗回数
共通項目数+4	MinimumResponseTime Milliseconds	最小応答時間(ミリ秒)	当該期間の最小応答時間(ミリ秒)
共通項目数+5	MaximumResponseTime Milliseconds	最大応答時間(ミリ秒)	当該期間の最大応答時間(ミリ秒)
共通項目数+6	AverageResponseTime Milliseconds	平均応答時間(ミリ秒)	当該期間の平均応答時間(ミリ秒)

【TCPPort】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	ForDisplayEndpoint	エンドポイント	エンドポイント
共通項目数+2	SuccessCount	累計成功回数	当該期間の成功回数
共通項目数+3	FailCount	累計失敗回数	当該期間の失敗回数
共通項目数+4	MinimumResponseTime Milliseconds	最小応答時間(ミリ秒)	当該期間の最小応答時間(ミリ秒)
共通項目数+5	MaximumResponseTime Milliseconds	最大応答時間(ミリ秒)	当該期間の最大応答時間(ミリ秒)
共通項目数+6	AverageResponseTime Milliseconds	平均応答時間(ミリ秒)	当該期間の平均応答時間(ミリ秒)

【VirtualMemory】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	MinimumUsedPercent	最小メモリ使用率	当該期間の最小メモリ使用率
共通項目数+2	MaximumUsedPercent	最大メモリ使用率	当該期間の最大メモリ使用率
共通項目数+3	AverageUsedPercent	平均メモリ使用率	当該期間の平均メモリ使用率

【Custom】

カラム番号	ヘッダタイトル		値
	en	jp	
共通項目数+1	OrderName	種別列の内容	
共通項目数+2	KeyString	キー列の内容	
共通項目数+3	Unit	ユニット	Percent、Float
共通項目数+4	MinimumValue	最小値	当該期間の最小値
共通項目数+5	MaximumValue	最大値	当該期間の最大値
共通項目数+6	AverageValue	平均値	当該期間の平均値

4.4 MessageDownload コマンド

4.4.1 コマンド概要

通知メッセージを CSV 形式でダウンロードします。ダウンロードした CSV は後述の通知メッセージビューアの入力ファイルとして利用できます。

4.4.2 コマンド様式

コマンドの様式は以下のとおりです。

```
MessageDownload [-o ownercd]
                 [-d yyyymmdd]
                 [-fp "outputfolderpath"]
                 [-fn "outputfilename"]
```

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナー CD	アクセスユーザのオーナー CD
-d	対象年月日	システム時刻の前日（ローカルタイム）
-fp	出力する CSV ファイルの出力フォルダを指定する（※1）	デスクトップ¥%ownercd%
-fn	出力する CSV ファイルのファイル名を指定する（※1）	Message_%yyyymmdd%.csv

※1：以下の代替文字が使用できます。代替文字は英字大文字、小文字を判定しません

代替文字	設定値
%OwnerCD%	-o の値
%YYYYMMDD%	-d の値

4.4.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※2
16	例外が発生した	※2

※2：エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

4.4.4 ダウンロードファイルの形式

(1) ダウンロードファイルの様式

ダウンロードファイルは CSV 形式のテキストファイルであり、文字コードは UTF-8 です。

ダウンロードファイルの先頭レコードは抽出条件を示すレコードであり、2 レコード目以降が通知メッセージレコードです。

(2) 先頭レコードフォーマット

カラム番号	内容	備考
1	対象オーナー CD	
2	抽出日 (From)	YYYYMMDD
3	抽出時間 (From)	hhmm
4	抽出時間 (To)	hhmm
5	抽出日 (To)	YYYYMMDD

※1: 抽出日 (To) が抽出日 (From) と同じとき、抽出日 (To) のカラムは存在せず、本行のカラム総数は 4 となります

(3) 通知メッセージレコードフォーマット

カラム番号	内容	備考
1	メッセージ生成時刻	YYYYMMDDhhmmssSSS (UTC)
2	メッセージ生成シーケンス番号	
3	メッセージ ID	メッセージを一意に示す ID
4	ノード ID	ノードを一意に示す ID
5	ノード CD	データ生成時点のノードコード
6	インスタンス ID	サーバインスタンスを一意に示す ID
7	インスタンス名	
8	メッセージの種類 100 : Information 200 : Warning 900 : Error	
9	発生理由 100 : MessageAccept 200 : ErrorOccurred 210 : ErrorRecovery 300 : WarningOccurred 310 : WarningRecovery 900 : CenterMessage	
10	メッセージの状態 100 (ConfirmError) : 確認済みのエラーメッセージ 200 (UnconfirmError) : 未確認のエラーメッセージ 300 (ExceptedMessage) : 抑止されたエラーメッセージ 400 (ExceptConfirm) : 確認管理されないメッセージ (警告、情報)	
11	元となった監視 1000 (CPUBusy) 1100 (DiskBusy) 1110 (DiskSpace)	

	1200 (PhysicalMemory) 1210 (VirtualMemory) 1300 (Service) 1400 (Process) 2000 (EndPoint_Ping) 2100 (EndPoint_HTTP) 2200 (EndPoint_TCPPort) 3000 (API_AmazonEC2) 3100 (API_AzureIaaS) 3200 (API_AzurePaaS) 5000 (DBSpace) 5010 (DBQuery) 8000 (EventLog) 8100 (TextLog) 8900 (Message) 9010 (Custom)	
12	発生時刻	YYYYMMDDhhmmssSSS (UTC)
13	通知コード	
14	件名	バックスラッシュは¥u005C、CR は¥u000D、LF は¥u000A に変換
15	本文	

4.5 ShowStatus コマンド

4.5.1 コマンド概要

現在の監視状況を標準出力に表示します。

4.5.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
ShowStatus [-o ownercd]
            [-os (true|false)]
            [-n (#all|#Error|nodecd,...)]
            [-m (#all|#Error|monitornumber,...)]
```

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD
-os	対象オーナーのステータス情報表示要否	false
-n	対象のノード CD を指定します。本引数が#all のとき、全ノードを表示します。本引数が#Error のとき、ステータスが Error のノードを表示します。カンマ区切りで複数のノードコードを指定できます。本引数が空値のとき、ノード情報、監視項目情報は表示されません	空値
-m	表示する監視項目を指定します。本引数が#all のとき、全監視項目を表示します。本引数が#Error のときステータスが Error の監視項目を表示します。カンマ区切りで複数の監視項目を指定できます。本項目が空値のとき、監視項目情報は表示されません 1000 (CPUBusy) 1100 (DiskBusy) 1110 (DiskSpace) 1200 (PhysicalMemory) 1210 (VirtualMemory) 1300 (Service) 1400 (Process) 2000 (EndPoint_Ping) 2100 (EndPoint_HTTP) 2200 (EndPoint_TCPPort) 3000 (API_AmazonEC2) 3100 (API_AzureIaaS) 3200 (API_AzurePaaS) 5000 (DBSpace) 5010 (DBQuery) 9010 (Custom)	空値

4.5.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した（表示したステータスは全て Good）	
4	Warning、Unknown のステータスを表示した	
8	Error のステータスを表示した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※1：エラー情報は、標準エラー出力に出力されます

4.5.4 コマンドの使用例

（１）リターンコードによる判定

以下の例では、ShowStatus コマンドを使用し、サーバにエラーがある場合、その内容を SendErrorAPI コマンド（※1）で送信しています。

```
@echo off
ShowStatus ...
IF "%ERRORLEVEL%" LSS "8" (
SendInfoAPI -s "ステータス確認報告" -m "エラーは発生していません"
) else (
SendErrorAPI -s "ステータスエラー報告" -m "エラーが発生しています"
)
```

（２）パイプを利用したエラー通知

以下の例では、ShowStatus コマンドの結果を Find で抽出し、エラーのステータスを持つ行のみを SendErrorAPI コマンド（※1）の標準入力に引き渡しています。SendErrorAPI コマンド（※1）は標準入力の内容が空値のとき、メッセージを送信しないため、エラーが発生している場合のみメッセージが通知されます。

```
@echo off
ShowStatus ... | Find "[Error]" | SendErrorAPI
```

※1：コマンドの詳細は、後述の「SendInfoAPI、SendWarningAPI、SendErrorAPI」を参照して下さい

4.6 GetBillingNodeInfo コマンド

4.6.1 コマンド概要

指定されたオーナー、月のノード課金情報を CSV ファイルに出力します。

4.6.2 アクセスユーザ権限

本コマンドを使用するためには、User 以上の権限に加え、課金情報参照権限が必要です。

4.6.3 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
GetBillingNodeInfo [-o ownercd]
                  [-m yyyyymm]
                  -f outputfilepath
```

引数	内容	仮定値						
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD						
-m	出力対象月を YYYYMM 形式で指定します。2018 年 10 月以降の月を指定して下さい	システム時刻（UTC）の前月						
-f	CSV ファイルの出力先を指定します。以下の代替文字列が使用できます <table><tr><td>代替文字列</td><td>内容</td></tr><tr><td>%ownercd%</td><td>オーナーコード</td></tr><tr><td>%yyyyymm%</td><td>対象年月</td></tr></table>	代替文字列	内容	%ownercd%	オーナーコード	%yyyyymm%	対象年月	省略不可
代替文字列	内容							
%ownercd%	オーナーコード							
%yyyyymm%	対象年月							

4. 6. 4 CSV 様式

出力される CSV ファイルの内容は以下のとおりです。CSV ファイルの文字コードは UTF8 です。

CSV 列#	内容	備考
1	ノード ID	
2	ノード CD	課金処理時点のノード CD
3	課金の種類（文字） Agent Watch Custom Watch(No Stats) Custom Watch Response Watch API Watch	ブラウザに表示された課金の種類。本列は月別に内容が異なる可能性がある。判定には次列課金の種類（数値）の使用すること
4	課金の種類（数値） 100 : Agent Watch 200 : Custom Watch(No Stats) 210 : Custom Watch 300 : Response Watch 400 : API Watch	100 : Agent Watch、200 : Custom Watch(No Stats)、210 : Custom Watch1 は時間課金、300 : Response Watch、400 : API Watch は月額課金である
5	課金額（円）	
6	統計情報保有日数	BillingType が 100（Agent Watch）、210（Custom Watch）、300（Response Watch）の場合統計情報保有日数。それ以外の場合は-1
7	応答監視エンドポイント数	BillingType が 300（Response Watch）の場合応答監視エンドポイント数。それ以外の場合は-1
8	単価（円）	
9	単位の種類（文字） Hours Days	ブラウザに表示された単位の種類。本列は月ごとに内容が異なる可能性がある。判定には次列単位の種類（数値）を使用すること
10	単位の種類（数値） 100 : Hours 200 : Days	時間課金の場合 100 : Hours、月額課金の場合（日割りされるので）200 : Days が設定される
11	数量	月額課金の場合、日数が設定される
12	備考	ブラウザに表示された備考

5. 連携設定コマンド

5.1 アクセスユーザ権限

連携設定コマンドを使用するためには、アクセスユーザとして、ServiceAdmin 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

5.2 実行制限

過度な実行を抑止するため、同一コンピュータ内で連携設定コマンドの同時実行を制限します。実行制限されたコマンドは、先行コマンドの終了を待ち、自動的に処理を再開します。

5.3 GetMessageCustomizes コマンド

5.3.1 コマンド概要

現在のカスタムメッセージを指定されたファイルに CSV 形式で出力します。

5.3.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
GetMessageCustomizes    [-o ownercd]  
                        -of outputfilepath
```

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD
-of	出力するファイルパスを指定します	必須

5.3.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※1：エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

5.3.4 出力ファイルの形式

出力ファイルは CSV 形式のテキストファイルであり、文字コードは UTF-8 です。

カラム番号	内容	備考
1	通知コード	
2	有効/無効	True/False
3	件名	
4	本文	バックスラッシュは¥u005C、CR は¥u000D、LF は¥u000A に変換される

5.4 SetMessageCustomizes コマンド

5.4.1 コマンド概要

カスタムメッセージを指定されたファイルの内容に置き換えます。現在の設定値は全て削除され、指定ファイルの内容が追加されます。

5.4.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
SetMessageCustomizes [-o ownercd]  
-if inputfilepath
```

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD
-if	入力するファイルパスを指定します	必須

5.4.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※1：エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

5.4.4 入力ファイルの形式

入力ファイルは CSV 形式のテキストファイルであり、文字コードは UTF-8 です。本ファイルは GetMessageCustomizes コマンドと同じ形式です。

カラム番号	内容	備考
1	通知コード	ZZXX-XXX-X（先頭が 00～69 であり、且つ存在する通知コード）
2	有効/無効	True または False であること
3	件名	以下のチェックが実施される ・制御文字を含まないこと ・サロゲートペア文字を含まない ・200 文字以下であること
4	本文	以下の制御文字変換が実施される ・¥u000D は CR に変換される ・¥u000A は LF に変換される ・¥u005C はバックスラッシュに変換される ・改行は CRLF に統一される ・タブは空白に変換される ・CR、LF、タブ以外の制御文字は削除される 制御文字変換後、以下のチェックが実施される ・サロゲートペア文字を含まないこと ・4000 文字以下であること

5.5 GetCalendar コマンド

5.5.1 コマンド概要

指定されたカレンダー情報を CSV 形式で出力します。

5.5.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
GetCalendar [-o ownercd]
             -c calendarcd
             [-y year]
             -cf outputcsvfilepath
```

引数	内容	仮定値								
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD								
-c	対象のカレンダ CD を指定します	必須								
-y	対象の年（YYYY）を指定します	現在時刻（UTC）の年								
-cf	出力する CSV ファイルパスを指定します。 以下の代替文字列が使用可能です <table><tr><td>代替文字列</td><td>内容</td></tr><tr><td>%OwnerCD%</td><td>引数のオーナー CD</td></tr><tr><td>%CalendarCD%</td><td>引数のカレンダ CD</td></tr><tr><td>%Year%</td><td>引数の年（4 桁）</td></tr></table> 指定されたファイルが既に存在する場合、 上書きされます	代替文字列	内容	%OwnerCD%	引数のオーナー CD	%CalendarCD%	引数のカレンダ CD	%Year%	引数の年（4 桁）	必須
代替文字列	内容									
%OwnerCD%	引数のオーナー CD									
%CalendarCD%	引数のカレンダ CD									
%Year%	引数の年（4 桁）									

5.5.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※2: エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

5.5.4 出力ファイルの形式

出力ファイルは CSV 形式のテキストファイルであり、文字コードは UTF-8 です。

1 行=1 か月で出力されます。最大出力行数は 12 です。休日設定されていない月の行は出力されません。

カラム番号	内容	備考
1	月	
2 以降	休日設定された日	

5.6 SetCalendar コマンド

5.6.1 コマンド概要

指定された CSV ファイルでカレンダー情報を登録します。対象のカレンダー CD が存在しない場合、追加します。対象年に休日設定が存在する場合、既存の設定値は削除され、CSV ファイルの内容が登録されます。

5.6.2 コマンド様式

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
SetCalendar [-o ownercd]
             -c calendarcd
             [-cn calendarname]
             [-y year]
             -cf inputcsvfilepath
```

引数	内容	仮定値								
-o	対象のオーナー CD を指定します	アクセスユーザのオーナー CD								
-c	対象のカレンダ CD を指定します	必須								
-cn	設定するカレンダ名を指定します	省略した場合カレンダ名を更新しません。対象のカレンダ CD が存在しないとき、カレンダ名は省略できません								
-y	対象の年（YYYY）を指定します	現在時刻（UTC）の翌年								
-cf	入力する CSV ファイルパスを指定します。 以下の代替文字列が使用可能です	必須								
	<table><tr><th>代替文字列</th><th>内容</th></tr><tr><td>%OwnerCD%</td><td>引数のオーナー CD</td></tr><tr><td>%CalendarCD%</td><td>引数のカレンダ CD</td></tr><tr><td>%Year%</td><td>引数の年（4 桁）</td></tr></table>	代替文字列	内容	%OwnerCD%	引数のオーナー CD	%CalendarCD%	引数のカレンダ CD	%Year%	引数の年（4 桁）	
代替文字列	内容									
%OwnerCD%	引数のオーナー CD									
%CalendarCD%	引数のカレンダ CD									
%Year%	引数の年（4 桁）									

5.6.3 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1

※1: エラー情報は、エラー標準出力に出力されます

5.6.4 入力ファイルの形式

入力ファイルは CSV 形式のテキストファイルであり、文字コードは UTF-8 です。本ファイルは GetCalendar コマンドと同じ形式です。休日設定しない月の行は不要です。

カラム番号	内容	備考
1	月	
2 以降	休日設定する日	

6. 連携通知コマンド

6.1 アクセスユーザ権限

連携設定コマンドを使用するためには、アクセスユーザとして、ServiceAdmin 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

6.2 SendInfoAPI、SendWarningAPI、SendErrorAPI

6.2.1 コマンド概要

REST API を使って App Bridge センタへメッセージを送信します。

本コマンドを使用するためには、アクセスユーザとして、ServiceAdmin 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

6.2.2 コマンド様式

(1) 様式 1

引数の内容に従って、メッセージを送信します。

SendInfoAPI	[-o ownerde] [-n nodecd] [-c code] [-s subject] -m message
SendWarningAPI	[-o ownerde] [-n nodecd] [-c code] [-s subject] -m message
SendErrorAPI	[-o ownerde] [-n nodecd] [-c code] [-s subject] -m message

引数	内容	仮定値
-o	対象のオーナコードを指定します	アクセスユーザのオーナ CD
-n	対象のノードコードを指定します	なし 指定しないとき、オーナレベルのメッセージを登録します
-c	通知コードを指定します 形式は ZZXX-XXX-X です ZZ : 91~95 までの数字 X : 英字または数字 (英小文字は大文字に変換されます)	以下が仮定されます ・ SendErrorAPI : 9100-010-A ・ SendWarningAPI : 9200-030-C ・ SendInfoAPI : 9300-050-D
-s	件名を指定します。UTF8 換算で 1~512 バイトまで指定可能です (※1) (※2) 生成される通知メッセージ件名の最大は UTF8 換算で 200 バイトです。このため、指定する値を UTF8 換算で 200 バイト未満とすることを推奨します	【SendAPI】%MessageCD% (※3)
-m	本文を指定します。UTF8 換算で 1~8,000 バイトまで指定可能です (※1) 生成される通知メッセージ本文の最大は UTF8 換算で 4,000 バイトです。このため、指定する値を UTF8 換算で 4,000 バイト未満とすることを推奨します	必須

※1 : 最大値を超えた文字列が指定された場合、末尾が削除されます。

※2 : 改行、タブ、先頭の空白、末尾の空白は除去されます

※3 : %MessageCD%は、通知コードの代替文字です

(2) 様式 2

指定されたファイル、または標準入力の値を本文として送信します。

```
SendInfoAPI    [-f filepath] [-e (utf8|default)] [-n nodecd] [-c code] [-s subject]
SendWarningAPI [-f filepath] [-e (utf8|default)] [-n nodecd] [-c code] [-s subject]
SendErrorAPI   [-f filepath] [-e (utf8|default)] [-n nodecd] [-c code] [-s subject]
```

引数	内容	仮定値
-f	送信するメッセージが格納されたテキストファイルパス ファイルパスに *in を指定したとき、標準入力を使用します	*in
-e	-f の文字コード。*in を指定したときは無視されます utf8 : 通常の文字列 default : OS の標準文字コード	utf8
-n	対象のノードコードを指定します	なし 指定しないとき、オーナレベルのメッセージを登録します
-c	通知コードを指定します 形式は ZZXX-XXX-X です ZZ : 91～95 までの数字 X : 英字または数字（英小文字は大文字に変換されます）	以下が仮定されます ・ SendErrorAPI : 9100-010-A ・ SendWarningAPI : 9200-030-C ・ SendInfoAPI : 9300-050-D
-s	件名を指定します。UTF8 換算で 1～512 バイトまで指定可能です（※1）（※2） 生成される通知メッセージ件名の最大は UTF8 換算で 200 バイトです。このため、指定する値を UTF8 換算で 200 バイト未満とすることを推奨します	【SendAPI】%MessageCD%（※3）

※1 : 最大値を超えた文字列が指定された場合、末尾が削除されます。

※2 : 改行、タブ、先頭の空白、末尾の空白は除去されます

※3 : %MessageCD% は、通知コードの代替文字です

6.2.3 代替文字列

件名、本文には以下の代替文字列が使用できます。

代替文字列	内容	備考
%GenerateTime%	事象発生日時	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
%OwnerCD%	対象のオーナ CD	
%HostName%	事象が発生（事象を検知）したホスト名	
%NodeCD%	スケーリング制御なしの場合「ノード CD」 スケーリング制御ありの場合「ノード CD : インスタンス名」	
%MessageCD%	対象の通知コード	
%Status%	現在のステータス	Good、Warning、Error

6.2.4 コマンドの実行制限

本コマンドは、メッセージ送信コマンド（SendInfo、SendWarning、SendError コマンド等）の1つとして取り扱われ、メッセージ送信コマンドとしての実行制限が適用されます。

実行制限の詳細は、「App Bridge Monitor ユーザメッセージ監視サービスガイド/メッセージ送信コマンド/コマンド実行制限」を参照下さい。

6.2.5 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常に終了した	
12	引数に誤りがある	※1
16	例外が発生した	※1
20	1 時間当たりの最大実行回数を超過した	

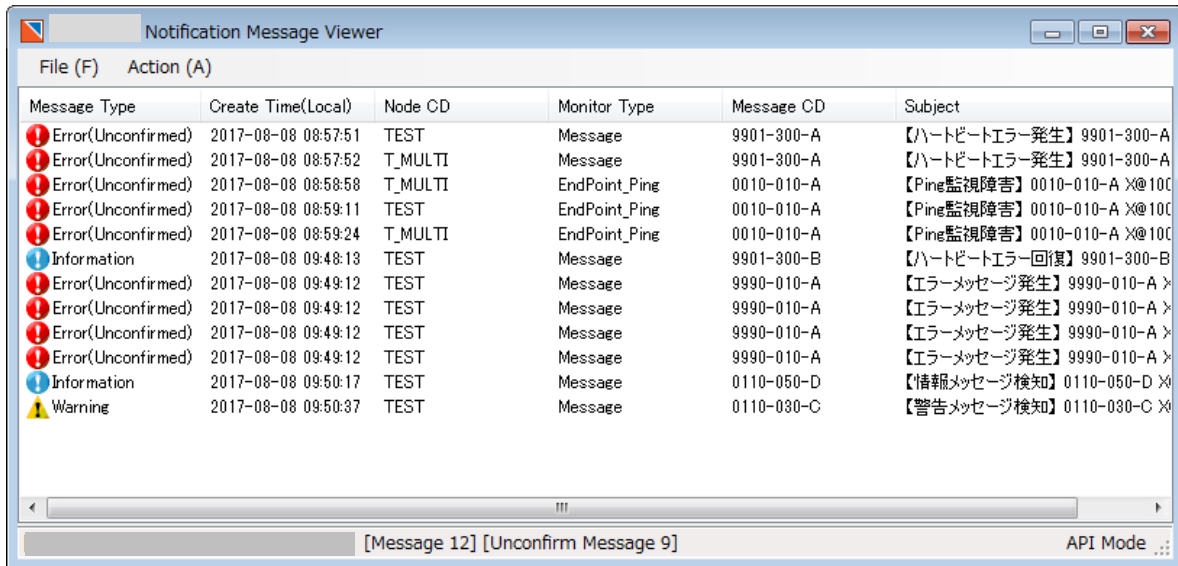
※1：エラー情報は、標準エラー出力に出力されます

7. 連携フォーム

7.1 通知メッセージビューア

7.1.1 フォーム概要

通知メッセージを取得し、フォームに表示します。未読メッセージを既読に変更することも可能です。API を使用し、分割しながら既読設定するため、Web アプリケーションでは処理できない大量の未読メッセージを既読に変更することが可能です。



Message Type	Create Time(Local)	Node CD	Monitor Type	Message CD	Subject
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 08:57:51	TEST	Message	9901-300-A	【ハートビートエラー発生】 9901-300-A
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 08:57:52	T_MULTI	Message	9901-300-A	【ハートビートエラー発生】 9901-300-A
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 08:58:58	T_MULTI	EndPoint_Ping	0010-010-A	【Ping監視障害】 0010-010-A ※@100
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 08:59:11	TEST	EndPoint_Ping	0010-010-A	【Ping監視障害】 0010-010-A ※@100
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 08:59:24	T_MULTI	EndPoint_Ping	0010-010-A	【Ping監視障害】 0010-010-A ※@100
Information	2017-08-08 09:48:13	TEST	Message	9901-300-B	【ハートビートエラー回復】 9901-300-B
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 09:49:12	TEST	Message	9990-010-A	【エラーメッセージ発生】 9990-010-A ※
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 09:49:12	TEST	Message	9990-010-A	【エラーメッセージ発生】 9990-010-A ※
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 09:49:12	TEST	Message	9990-010-A	【エラーメッセージ発生】 9990-010-A ※
Error(Unconfirmed)	2017-08-08 09:49:12	TEST	Message	9990-010-A	【エラーメッセージ発生】 9990-010-A ※
Information	2017-08-08 09:50:17	TEST	Message	0110-050-D	【情報メッセージ検知】 0110-050-D ※
Warning	2017-08-08 09:50:37	TEST	Message	0110-030-C	【警告メッセージ検知】 0110-030-C ※

[Message 12] [Unconfirm Message 9] API Mode

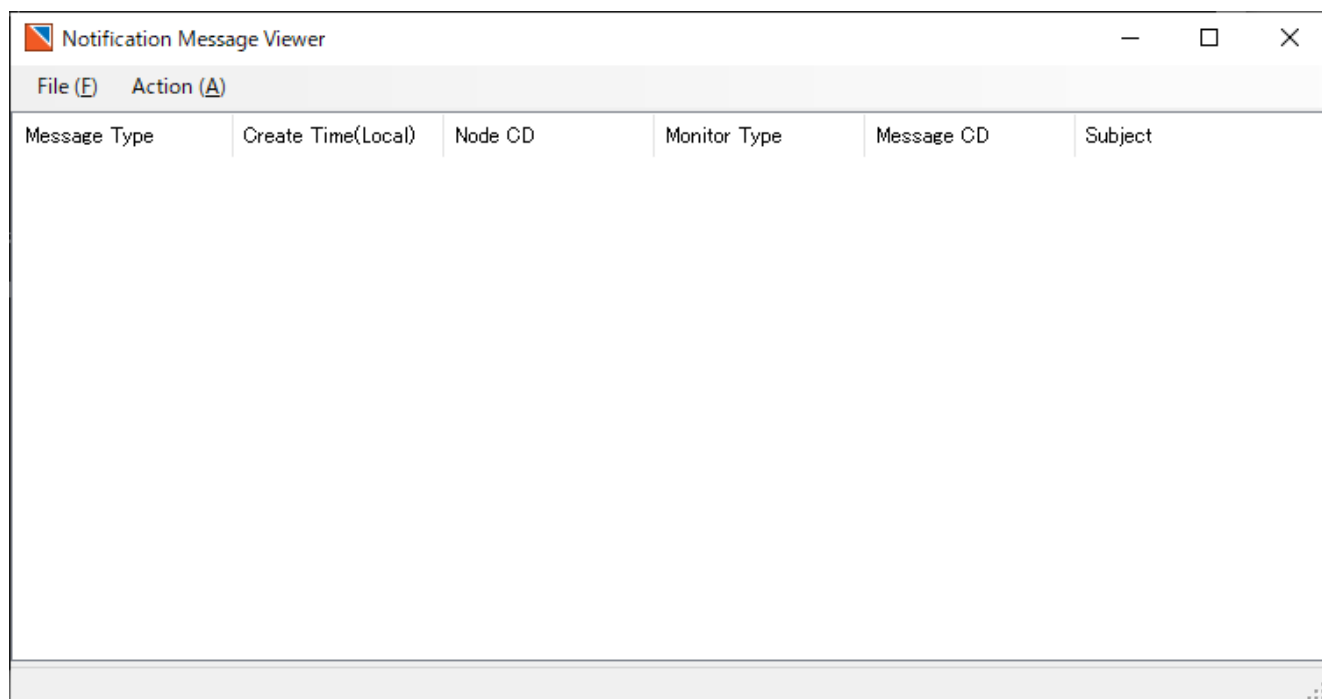
7.1.2 アクセスユーザ権限

通知メッセージビューアを使用するためには、アクセスユーザとして、User 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

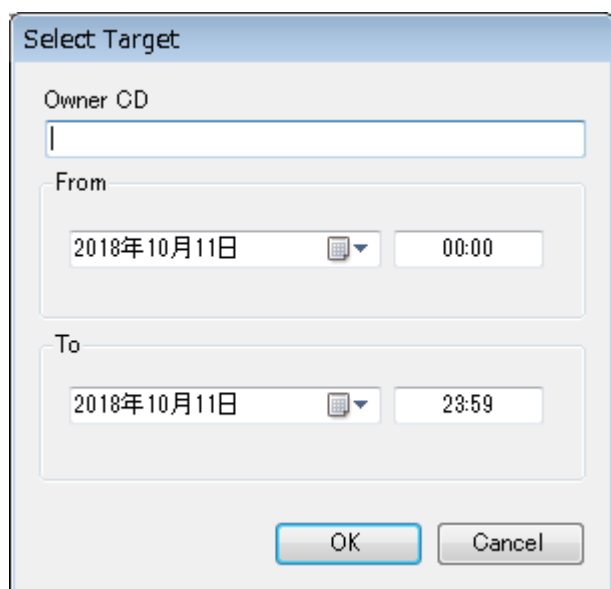
未読メッセージを既読に変更するためには、アクセスユーザとして、ServiceAdmin 以上の権限を持つユーザを指定する必要があります。

7.1.3 起動方法

インストールした PC/サーバのメニューから、[スタート]→[App Bridge API Tools]→[Notification Message Viewer]を選択します。



表示されたメイン画面のメニューから、「File」－「Open Message From Center」を選択し、表示された画面で抽出条件のオーナー CD と日時を入力します。



ユーザアカウントの設定を実施していない状態で起動すると、API Configuration 画面が開きます。表示された画面で通知連携サービスが使用するユーザアカウント情報を設定してください。入力項目の詳細は「3.4 アクセスユーザ設定」を参照ください。

7.1.4 表示データの抽出

メニューの「Action」 - 「Select Condition」を選択することで、表示データの絞り込みが可能です。

Select Condition

☐ Select Time

From
2021年 5月14日 00:00

To
2021年 5月14日 23:59

Message Type

- ☒ Information
- ☒ Warning
- ☒ Error

Message Status

- ☒ Confirm
- ☒ Unconfirm
- ☒ Except

NodeCD (Regular Expression)

MessageCD (Regular Expression)

Subject (Regular Expression)

Body (Regular Expression)

☒ Slim Text

All Clear OK Cancel

「Slim Text」のチェックボックスについては App Bridge Monitor 正規表現ガイドの「4. データのスリム化」を参照願います。

7.1.5 CSV ファイルのインポート/エクスポート

メニューの「File」 - 「Import」、「Export」を選択することで、取得した通知メッセージを CSV ファイルとして保存することができます。保存した CSV ファイルをインポートすることで表示することも可能です。

CSV ファイルは、MessageDownload コマンドと互換性があります。MessageDownload コマンドでダウンロードした CSV ファイルを表示することも可能です。

CSV ファイルのインポートを実施すると Select Target 画面はインポートしたデータの情報が表示されます。